

福祉公社通信

6月号

令和元年 6月 10日 発行

第75号 月刊



福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和55年に設立した在宅サービス提供機関です。
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

芒種も過ぎ、紫陽花の七色が雨を彩る季節の到来です。

芒種とは芒（のぎ）のある穀物を播く時期の意味で、6月6日頃に当たります。先月下旬には時ならぬ連日の真夏日もありましたが、今は梅雨冷や高温多湿で、不順な天候の時期でもあります。

食中毒や熱中症に十二分にご留意なさり、皆様にはお健やかに過ごしてください。



＜紙面から＞

令和元年度理事長講話・コンプライアンス研修	
第三期中長期事業計画策定	・・・1ページ
みんなの音楽会 / 卒寿のはり絵	
権利擁護センターからのお知らせ	・・・2ページ
北町高齢者センター みずきっこの交流会	
社会活動センター 初夏のコンサート / みどりのわカフェ	
「新年度事業 めざすものはこれだ！」	・・・3ページ
お知らせ リレーコラム	・・・ 4ページ

令和元年度 理事長講話

コンプライアンス研修

4月19日に、恒例の期首理事長講話と常務理事によるコンプライアンス研修が実施されました。

福祉公社が昭和55年12月に設立されてから40年近い歳月が流れ、その間の世の中の変化、時代の流れに沿って役割を「しなやかに変容させること」の大切さが、萱場理事長により説かれました。

設立当初は、武蔵野市が提供する公的な在宅福祉サービスを補充補完するために、在宅サービスメニューを充実させ、専任のソーシャルワーカーと看護師がサービス利用のマネジメントをしつつ、後見人的にご利用者を支援するスタイルでした。所謂、武蔵野方式の担い手が主たる役割でした。

しかし、在宅介護・地域包括支援センターが整備され、介護保険の実施によるケアマネジャーやサービス提供責任者、訪問看護師等、ご利用者お一人を複数の専門職が支援する体制になり、公社の諸サービスも変化しました。市の福祉体系上の役割も市が設立した公益団体として、民間事業者

の下支えやセーフティーネット機能のみならず、市内の事業者や専門職の調整役をも担うようになりました。

ここで福祉公社に求められるのが、公益性・補完性・サービスの良質性・先進性に加え、事業の公正性や透明性です。

小島常務理事によるコンプライアンス研修では、その概念、社内規範の遵守、ご利用者の立場に立って職務を遂行することでコンプライアンスの向上を目指すこと、違和感もまた提案や行動を変える力となり、これが良き未来を招く可能性を持つこと、などが話されました。

またコンプライアンスに密接不離の公益通報制度、個人情報保護、情報セキュリティについても学びました。

職員が皆ともに清らかな気持ちで業務に取り組む4月。職員一同、この学びを活かしつつ、市の福祉増進に取り組んでまいります。

第三期中長期事業計画を策定しました

社会情勢や福祉を取り巻く環境が急激に変化し続けています。

この変化を見通した、効率的な事業運営が一層のスピードで求められています。

時代の激しい変化がもたらす危機感を職員が共有し、これに対応するために、この4月に1年前倒しをして、第三期中長期事業計画を策定しました。計画期間は令和元（2019）年度から5年間です。

詳細はホームページ（URL<http://www.fukushikocha.jp/>）をご覧ください。

♪みんなの音楽会♪

高齢者総合センターデイサービスセンター

5月29日、武蔵野市で音楽を気楽に楽しんでいる、楽々会の皆様による懐かしの昭和の名曲コンサートを開催しました。

前半の演目は、センター長のウクレレ演奏に合わせたスタッフの歌と手話とダンスです。ハナミズキのメロディーにのせて簡単な手話を、ダンシングヒーローをバックミュージックにダンスを披露しました。手話は1か月前からプログラムの中でも取り入れ、手話の得意なご利用者のS様を師範に、本番に向け猛練習しました。楽しく成果を発表できました。

続いて唱歌ふるさとの合唱。

伴奏はハーモニカ歴80年、96才のS様です。その音色は郷愁を誘い、しみじみと心に響きました。

後半は楽々会の皆様の歌です。社会活動センターの山上講師のピアノ演奏で、昭和の名曲が時系列に沿っ



て披露されました。赤とんぼから始まり、昭和10年代は蘇州夜曲、20年代・長崎の鐘、30年代・上を向いて歩こう、40年代・翼を下さい、50年代・北国の春、60年代・川の流れのようにまで、全7曲。

北国の春は、Yボランティアさんが千昌夫に扮して熱唱。やんやの大喝采でした。

みんなが参加できた、楽しい時間でした。

このように、高齢者総合センターのデイサービスは、社会活動センターの受講者の皆様と、四季折々、相互にエールを送る交流を続けています。

入魂の逸品 卒寿のはり絵



この作品は、ホームヘルプセンター武蔵野のご利用者90歳のY様の作品です。絵のように見えますが、なんと和紙で作った「はり絵」です。

ご友人からの依頼で、ご自宅の近くに咲いていたタンポポを観察して制作したそうです。

ポイントは手で和紙をちぎること。これで自然な風合いがでるそうです。

作品を詳しく見ると、その色使い、色合いの豊かさに驚かされます。葉の表と裏の違いが多彩に表現され、淡く霞む奥の葉で遠近感が増しています。花びらは細かく貼り付けられています。

感嘆のほか言葉が見つからない和紙の作品です。

卒寿を迎えても、真摯に制作に取り組み、趣味の深化に努めていらっしゃるY様は、高齢社会の尊敬すべきトップランナーです。

権利擁護センターからのお知らせ 財産目録の作成と終末期医療の意思表示の重要性

権利擁護センターは財産管理やリビングウィル、成年後見等を担当し、ご利用者の平安な在宅生活を支援しています。この分野のニーズを発見したケアマネジャーなどの専門職が仲介して、センターのサービスが開始します。円滑で機動的なサービス提供を担保するために、平生のご利用者の主体的な老いじたくは欠かせない要素です。是非、財産目録の作成と終末期医療意思表示の2点の備えをなさるようにお勧めします。

そのために、老いじたくやエンディングノート講座をご活用ください。

問合せ 権利擁護センター ☎ 23-1165

みずきっこの交流会 北町高齢者センター



5月15日、センターの体操プログラムとみずきっこの音楽プログラムを合同で行いました。

三々五々、親子が集まります。

最初は親子一組。お子さんは、自分に集中するご利用者の熱い視線に緊張していましたが、お優しい皆様の笑顔やいつくしみ深い眼差しに、段々と表情が緩んでいきました。

遅れて合流した4組の親子も大勢のご利用者を目の当たりにして、びっくりした顔、終始笑顔など様々です。



ご利用者は、何度も、「かわいいね」「こっち向いて～」と、ちいさなお客様に大喜びです。手遊び歌やボールの手渡し、歌の交流、最後にはとなりのトトロの“さんぽ”の歌に合わせて足踏みし、音楽が止んだら足を止めるゲームなど、いろいろと楽しめた合同プログラムでした。「また子どもたちと遊びたいわ」「楽しかったわ」とご利用者は異口同音に感想をおっしゃっていました。

ご利用者と子育て世代のユニークな交流が北町高齢者センターの先駆的取り組みです。

高齢者総合センター社会活動センター **恒例 初夏のコンサート** ～ 弦楽四重奏の調べ ～

5月29日、社会活動センターヴァイオリン講座の松永真理子講師のカルテット<Pino>によるコンサートが開催されました。四つの楽器が紡ぎだすメロディーが対話するように和合し、豊かな調べを醸し出して、ご来場者を魅了しました。曲目は「ヴィヴァルディ『四季』～春～」や「川の流れるように」など、クラシック、歌謡曲、映画音楽・・・と幅広いジャンルに及びました。奏者の華麗な衣装に祝祭気分も高揚します。

「ニノ・ロータの第1楽章はこれぞ四重奏という感じだった」「いろいろなジャンルの馴染みの曲を弦楽四重奏で聞けてよかった」など、ご好評をいただきました。



Pino のみなさま

第1ヴァイオリン	松永 真理子
第2ヴァイオリン	中田 智美
ヴィオラ	小谷 泉
チェロ	宮澤 等
	(敬称略)

社会活動センターは、四季折々、行事を催行しています。昨年度の行事数は16回、延べ2,374名が参加されました。その目的は、市民の皆様が相互に交流し、社会性を保持して、孤立を防ぐきっかけ作りです。これからも多数の皆様のご参加をお待ちしています。

- ◇ **平成最後の みどりのわ カフェ**： 4月26日に開催しました。当日は朝から雨でしたが10名がご参集。カフェを楽しみながら、介護保険の気になる動向、いきいきサロンの話題で、和気あいあいと意見交流しました。また余興にボランティアさんのギター演奏があり、懐かしのフォークソングメロディーを耳にして、皆様お喜びでした。お仲間と交流してより充実した老後生活を送れるよう、みどりの輪をご活用ください（高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター）。
- ◇ **「新年度事業 めざすものはこれだ！」集会**： 3月15日、福祉公社の全部署の職員が一堂に会し、次年度の各部署の事業目標の発表・決意表明の集いが開かれました。それぞれの部署が趣向を凝らし、ユニークなPR合戦を繰り広げました。在宅介護・地域包括支援センターは、宮沢賢治の詩「雨にも負けず」に倣って日々の業務を語り、眼前に職員の奮闘がアリアリと浮かび上がるようでした。各部署の相互理解や職員の一体感を促進する得難い機会でした。

福祉公社からのお知らせ

◎ 権利擁護センターの講座

老いじたく講座 ～成年後見制度について～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して、尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 6月28日(金)13時30分から15時
場所 市民会館 第二学習室



エンディングノート書き方講座

想いを記すことは残された人たちへの指針

日時 7月12日(金)13時30分から15時
場所 福祉公社 1階会議室

問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター
申込 ☎ 23-1165 ◎参加費無料

- ◎ ホームヘルプセンター武蔵野
- ◎ 武蔵野市地域包括ケア人材育成センター



ホームヘルプセンター武蔵野と地域包括ケア人材育成センターでは、広く事業を周知するために、ツイッターで情報を発信しています。皆様、ぜひご覧ください。

職員リレーコラム

「猫が悪さをして、気づいたこと」 ケアプランセンター 武田 美智代

うちには、キジシロと茶トラの2匹のオス猫がいる。茶トラのフクは子猫の時から植物の葉っぱが大好き。キッチンの窓辺のガジュマルの葉は気づくとフクの歯形だらけ。寒さに弱いベンジャミンの鉢植えを冬にリビングに入れたら、あっという間にカミカミ、カミカミ。ある朝、葉っぱが一斉に落ちたベンジャミンを発見！「ええー、何が起こったの！」。ベンジャミンは環境の変化に弱く、ストレスを受けると突然葉っぱを落とすことがあるという。12年間、たいして手入れもされないまま、枯れずに過ごしてきたのに、ある日、同居の猫が大暴れしてこの姿に。かわいそうに……。しかし、翌春ベランダに鉢を出すと、根元から若葉が次々と出てきた！「よかった。すごいね」。そしてまた越冬の時期。猫がこない玄関に移動した。日当たりも風通しも悪いが仕方がない。猫からは防御したが、春にはすっかり弱り、幹が黒くなった。カイガラムシが発生したらしい。ベランダに出して暫くすると、また、みるみる若い葉っぱがいっぱい出てきた。なんという生命力！植物は何も言わないけれど、たくましい、すごい生き物だ。キッチンのガジュマルも上へ上へと枝を伸ばし、自己防衛している。

編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 次号は令和元年7月10日発行予定です。

武蔵野市福祉公社 本部 東京都武蔵野市吉祥寺北町 1-9-1

- 総務課 ☎0422-23-1165
- 権利擁護センター・ケアプランセンター ☎0422-23-1165
- ホームヘルプセンター武蔵野 ☎0422-23-2611
- 地域包括ケア人材育成センター ☎0422-20-3741

武蔵野市立高齢者総合センター 東京都武蔵野市緑町 2-4-1

- 管理・社会活動センター ☎0422-51-1975
- 在宅介護・地域包括支援センター ☎0422-51-1974
- 住宅改修・福祉用具相談支援センター ☎0422-51-1974
- デイサービスセンター ☎0422-51-2933

武蔵野市立北町高齢者センター 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-1-16

- コミュニティケアサロン ☎0422-54-5300
- 子育てひろば・みずきっこ ☎0422-38-5150



福祉公社 HP <http://www.fukushikoshiya.jp/>
武蔵野市地域包括ケア人材育成センター <http://www.m-machigurumi.jp/>
ホームヘルプセンター武蔵野 <http://help-musashino.jp/>

業務時間 8:30~17:15 (全て共通)